

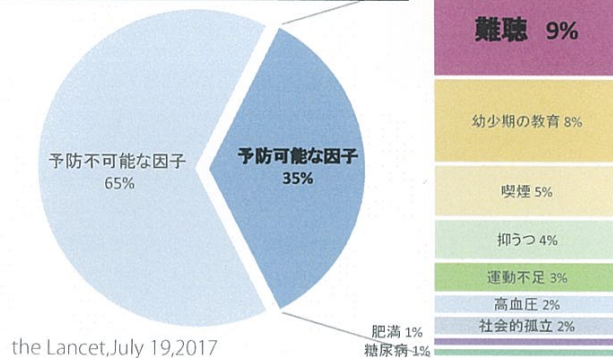
●難聴は認知症の危険因子の一つ●

現在、難聴と認知症の関係について、さまざまな研究が進められています。2015年に厚生労働省が公表した「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」において、認知症の危険因子として、加齢・高血圧・糖尿病のほかに、難聴が一因として挙げられています。

視覚や聴覚が衰えると脳に伝えられる情報量が減るために、認知症の発症や進行に影響すると考えられています。また、難聴になるとコミュニケーション力が落ちるので、人との会話を避けがちになり、社会的な孤立状態となり、その結果、認知症のリスクが上がると考えられています。

こうした悪影響を避けるためには、難聴を予防してできるだけ聞こえの状態を良好に保つことが大切になります。周囲の人が先に気づくことが多い難聴は早めに適切な対処をして耳の健康を保ちましょう。

認知症の予防が可能な因子の割合

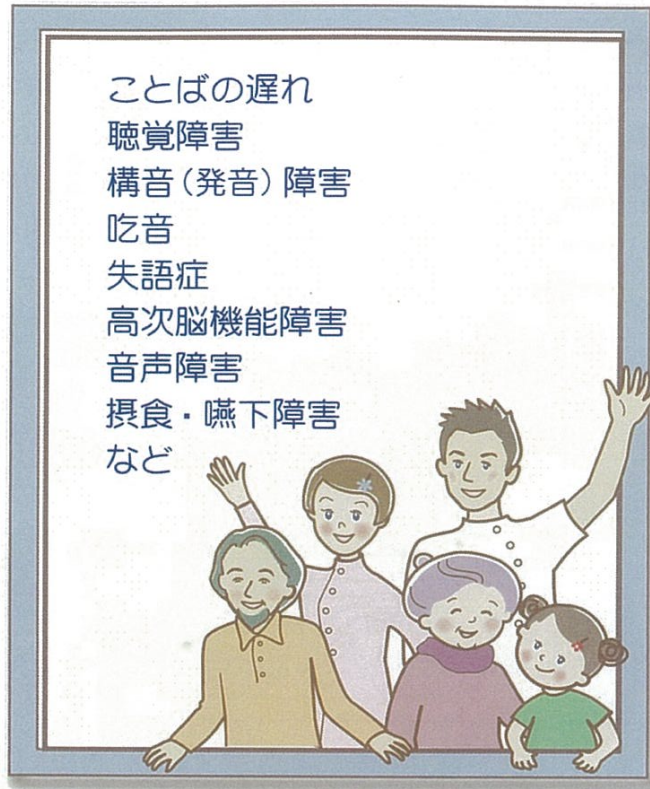


●ご家族や周囲の方へ●

難聴の方が社会とつながるためには周囲の方の十分な理解と協力が必要です。

聞こえが不自由な方は、早口で話す言葉や騒音の中での会話の聞きとりが難しくなっています。ゆっくり・丁寧に話していただくと、大きな声で話しかけるよりも聞きとりやすくなります。また、後ろから声をかけても気づきにくいので、しっかりと口元を見せて話しましょう。

言語聴覚士がお手伝いします



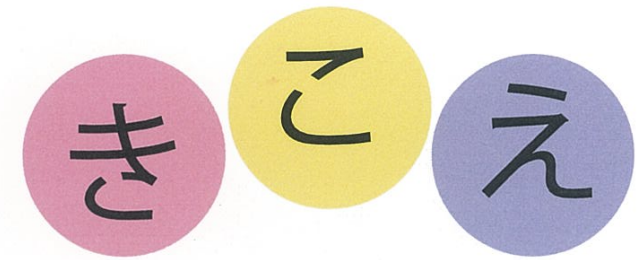
「話す・聞く・食べる」ことに
問題がある方やご家族の支援をいたします

福岡県言語聴覚士会

事務局

TEL 080-1776-5108

<http://st-fukuoka.or.jp>



大人編

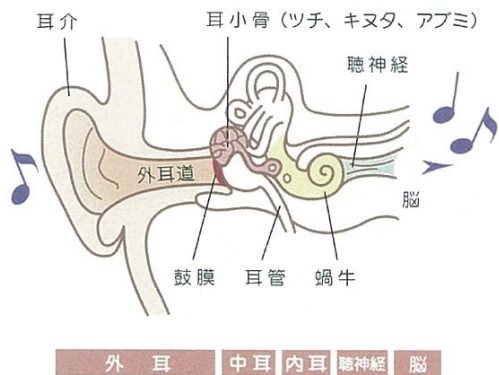


●気になることチェックリスト●

- テレビの音が大きいと言われる。
- 会議で相手の発言が聞きとりにくい。
- 聞き間違えることが多い。
- 会話が聞き取れず、聞き返してしまう。
- 病院などで名前を呼ばれても気づかないことがある。
- 後ろから呼ばれても気づかない。

●きこえについて●

■きこえの仕組み



●難聴の種類●

「伝音難聴」 中耳炎など外耳、中耳の部分に障害が生じた難聴。治療で治る場合もあります。

「感音難聴」 内耳から聴神経、脳にかけて障害がおこったもの。音が小さく聞こえるだけでなく、音の質も劣化して聞こえます。

「混合性難聴」 伝音難聴と感音難聴の両方の障害をもつ難聴。

●難聴の原因となる主な疾患●

難聴の原因は様々ですが、外傷、加齢、過度の騒音、メニエール病、髄膜炎、聴神経腫瘍などがあります。ほかにも、特定の薬剤によって難聴になることもあります。

症状も様々で、高齢者に多い「加齢性難聴」は感音難聴で、音が聞きとりにくくなるだけでなく、言葉を聞きとる力、特に騒音下でのききとり、多人数の会話でのききとりが悪くなります。個人差が大きく聞こえ方はそれぞれ違います。突発性や騒音性の難聴は放置すると悪化するため早めの受診治療が必要です。

メニエール病はめまいや耳鳴りに伴い難聴も引き起こします。

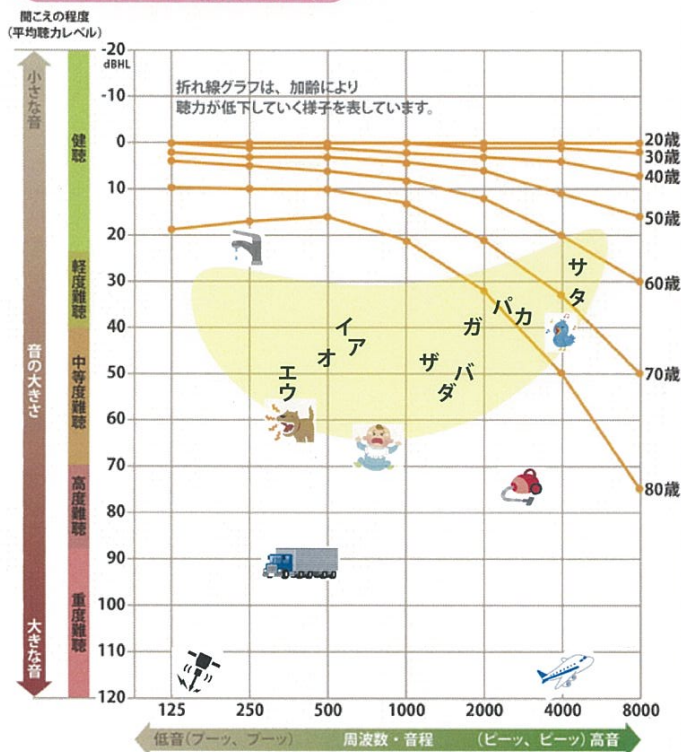
●きこえの検査について●

聞こえが悪いのではないかと感じたら、まずは実際に難聴があるのかどうか、その程度はどれくらいを確認するために、耳鼻咽喉科に受診しましょう。耳鼻咽喉科医は耳を診察し、必要な聴覚機能検査を行い難聴の診断を行います。

一般的に聴力検査には、どれくらい小さな音が聞こえるかを測定する「純音聴力検査」と言葉がどれくらい聞き取れるかを測定する「語音聴力検査」があります。

治療後も難聴が残存する場合は、補聴器や人工内耳の装用・訓練・評価を行います。

年齢別による聴力低下



〔折れ線グラフの参考文献〕 ISO 7829:2017 Acoustics - Statistical distribution of hearing thresholds as a function of age and gender (出典) リオネット補聴器 総合カタログ 2017年8月 (リオン株式会社) より引用

●補聴器について●

補聴器は装用するだけでなく聞こえるようになるわけではありません。時間をかけて段階的に調整が必要です。難聴になると、脳が長い期間音が伝わりにくい状態に慣れてしまっているため、最初は違和感を感じるかもしれません。そのため、補聴器の音に慣れるためのトレーニングが必要です。個々のきこえに合わせ段階的に補聴器を調整したり、適切な聞こえになっているか効果を確認したり、補聴器の効果を維持するためのリハビリを行ったりします。慣れには個人差があり、約3か月必要とも言われます。補聴器には耳かけ式、耳穴式などいくつかの種類があります。自分の聴力や使用する環境に合わせて選ぶことが大切です。



●人工内耳について●

重度の難聴、もしくは高度難聴でなおかつ適切な補聴器装用を行っても言葉の聞きとりが5割以下の場合、人工内耳埋込術が適応となります。

人工内耳とは、手術により体内に植え込むインプラントと、体外に装用するサウンドプロセッサおよびヘッドセットからなります。聞こえづらい音を大きくして聞こえをよくする補聴器とは異なり、音を電気信号に変換して直接神経に伝える装置です。インプラントを体内に植え込んだ後、聞こえに合わせて調整を行い、様々な音や声を聞いてリハビリを行います。



人工内耳